

第 13 回新潟胆膵研究会

日 時 平成 24 年 9 月 8 日 (土)
午後 2 時～
会 場 万代シルバーホテル 5 階
万代の間

I. 一 般 演 題

1 術式が S-1 の薬物動態に及ぼす影響：胆道癌術後の化学療法では術式を考慮すべきである

宗岡 克樹・白井 良夫*・佐々木正貴
若井 俊文*・坂田 純*・神田 循吉**
若林 広行**・畠山 勝義*

新潟医療センター病院外科
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野*
新潟薬科大学薬学部
臨床薬剤治療学研究室**

2 胆道癌と術前鑑別が困難であった良性胆道狭窄の臨床病理学的特徴

坂田 純・若井 俊文・白井 良夫
大橋 拓・畠山 勝義

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野

3 血管-胆管鞘に注目した肝門部領域胆管癌の進展様式および外科治療成績

若井 俊文・井上 貞・坂田 純
大橋 拓・白井 良夫・畠山 勝義
味岡 洋一*

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野
同 分子・診断病理学分野*

4 急性膵炎を繰り返した choledochocoele の 1 例

渡辺ゆかり・中村 隆人・兼藤 努
山本 幹・鈴木 健司・青柳 豊
塩路 和彦*・小林 正明*・成澤林太郎*
横山 恒**

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器内科学分野
新潟大学医歯学総合病院
光学医療診療部*
木戸病院内科**

症例は 74 歳，女性。平成 23 年 1 月食後の心窩部痛を主訴に近医受診したが異常は認められなかった。その後も疼痛は持続していたが経過観察していた。平成 24 年 4 月急性膵炎を発症した。保存的加療により 2 週間程度で軽快したが，原因は特定されなかった。しかし退院後 2 週間で膵炎を再発した。MRCP で乳頭部付近に約 10mm 大の嚢胞を認めた。繰り返す膵炎の精査目的で当科紹介となり，ERCP を施行した。内視鏡的に乳頭部の隆起ははっきりしなかったが，造影では嚢腫状に拡張した構造を認め，胆管と膵管がそれぞれ嚢腫内に開口していた。EST を施行後膵炎の再発は認められず経過している。繰り返す急性膵炎の原因であると考えられた choledochocoele の一例を経験したので報告する。

5 SpyGlass®の使用経験

荒生 祥尚・古川 浩一・佐藤 里映
五十嵐俊三・佐藤 宗広・相場 恒男
米山 靖・和栗 暢生・杉村 一仁
五十嵐健太郎・横山 直行*・大谷 哲也*
橋立 英樹**

新潟市民病院消化器内科
同 消化器外科*
同 病理科**

スパイグラスは内視鏡医が胆道・膵管内を直視下で観察・治療をすることを可能にしたプラットフォームであり，専用が開発された生検鉗子スパイバイトによる確実な組織による正診率の向上が期待されている。本年，本邦でも器具承認が